

# Dr.Anitua 来日公演報告レポート

加藤 嘉哉（加藤歯科クリニック：千葉県）

スペイン BTI社 PRGF-Endoret®の開発者であるDr. Eduardo Anituaが2017年9月初来日し、14～16日富山で開催されたIFED 2017 (10th World Congress of international Federation of Esthetic Dentistry) に招聘され、Implant & Prosthodonticsセッションで講演された後、16日東京都内のスペイン大使館にてPRGF-Endoret®特別講演を行った。

講演に先立ち、駐日スペイン国大使のD.Gonzalo de Benito氏よりご挨拶をいただき、現在スペインでは再生医療に携わる企業がとても成長しており、世界の再生医療に携わる研究機関、企業の規模はアメリカに次ぐ第2位であること、今後日本と科学技術協力をしていくことなどのお話をいただいた。

そして、PRGF-Endoret®日本協会会長の佐藤文昭先生の御挨拶の後、Dr. Anituaによる特別講演が始まった。

今回の講演の主なトピックスはPRGF-Endoret®の臨床応用として

- Post Extraction socket in Aesthetic zone
- Treatment of dry socket by bisphosphonate
- Peri-implantitis
- Biological Approach to Atrophic Maxilla

について講演された。

まずは創傷の治療について詳しく話され、PRGF-Endoret®を使用することによる細胞の走化性・分裂数の違い等



駐日スペイン国大使のD.Gonzalo de Benito氏

のデータを基に、他の多血小板血漿を用いたシステムとの違い、特に白血球を取り除くことの有意性や、抗凝固剤があることで成長因子の活性化をコントロールできることの有意性等を示された。

そしてPRGF-Endoret®特有のクロットをF1・F2に分けて使用する術式を再確認した後、スプリットマウスの臨床例でコントロールとの比較を用いて炎症や痛みの低減に有意差があること、またビスフォスフォネート製剤による顎骨壊死からのリカバリー症例等を通



PRGF-Endoret®日本協会会長の佐藤 文昭先生

して、ソケットプリザベーションにおけるPRGF-Endoret®の作用機序を再確認することができた。

また、組織再生の原理を生かした医科分野での応用として、潰瘍への応用、プロのスポーツ選手を中心とした関節・靭帯や腱への応用、ドライアイなどの角膜への応用、美容分野での皮膚へのアンチエイジングに対する応用など幅広い分野での応用を紹介された。

Peri-implantitisのトピックスでは、基本的な対処法から、感染が進行し撤去が必要なインプラント体をBTI社製



特別講演の座長を務められた塚原 宏泰先生

の除去キットを用いて低侵襲に除去する方法、撤去してからPRGF-Endoret®を用いたりカバリー方法などが提示された。

そして、来年日本での販売開始予定のBTI社のインプラントシステムの特長も合わせて紹介していただいた。インプラント体は直径3.3mmのナローインプラントから長さ5.5mmのエクストラショートインプラントを含む豊富なラインナップがあり、様々な顎骨の形態に対応できること、新しいBTI社のインプラントの表面性状に採用されている「unic Ca®」は既存の各社の表面性状に比べ、血液との親和性も高く、また、細菌に対する抵抗性の高さに優れていることなども解説された。

また、BTI社のインプラント体とアバットメントの結合について、「BIO-BLOCK®」と言う新しいコンセプトも紹介され、インプラント体とアバットメントが強固に連結され微少漏洩が無い

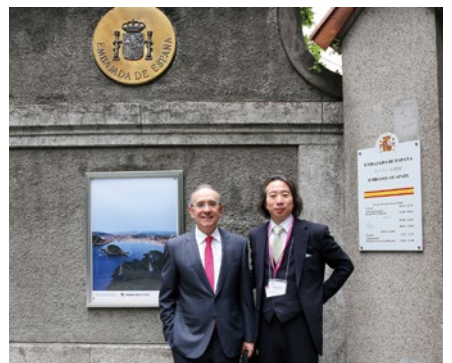


特別講演中のDr. Eduardo Anitua

とする実験データや、アバットメントの上部に連結される上部構造物からの応力をアバットメントから徐々に減らしていきインプラント体にかかる負荷を低減させるように設計されている力学的な配慮など示され、今後のインプラント治療の課題である、オッセointegrেশョンの速さだけでなく、口腔内で長期にわたり機能していく上で重要な、細菌感染に対する高い抵抗性を持っているインプラントシステムに大きな有意性を感じた。

最後のトピックとして萎縮した上顎骨への様々な骨造成法を用いた対応法や顎骨離断手術を併用する症例、若くして交通事故に遭い、歯と顎骨に損傷を受けた少年に対して、長期的に口腔機能と顔貌を回復させた症例など紹介された。

今回の特別講演で、Dr. Anituaがかねてより提唱している、まずしっかりとした生物学が基礎にあり、そこに確



Dr. Eduardo Anituaと筆者(スペイン大使館前)

かな手術手技とPRGF-Endoret®を応用することで、より確実に治療を成功に導くことを改めて再確認することができた。

PRGF-Endoret®療法が広く浸透し、今回 Dr. Anituaが示した最小限の外科的侵襲で予知性の高い治療が普及すれば、この医療を通して大きな社会貢献につながることになると思われる。

そして、来年日本での発売が予定されているBTI社のインプラントコンセプトの普及も、今後我が国におけるインプラント治療の新しい潮流になる事を楽しみにしている。